

峰山地域公民館からのお知らせ

No.98 平成20年12月10日号 峰山地域公民館発行 【お問い合わせ先 電話 69-0661】

第57回(平成21年度)みねやま写真展

.....今から準備を.....

第1部 テーマ

第2部 テーマ

「よろこび」

「自由」



どちらもカラー・ワイド四つ切り : 加工していない、デジカメも応募できます。

長い歴史をもつ「みねやま写真展」、今年度まで応募できる方は、峰山町在住または在勤の方と限定していましたが、21年度から市民だれでも応募できる写真展にすることにしました。

この写真展は、峰山地域公民館が行なう事業のひとつとして、小さな子どもさんからお年寄りの方まで、だれでも気軽に出展いただける写真展です。

あなたも、私たちの暮らしやさまざまな行事の中で、「よろこび・感動」の表情を撮って、今から応募の準備をしてください。

応募時期：平成21年9月ごろ

展示時期：平成21年11月初旬頃

応募資格：京丹後市に住んでおられる方

主催 峰山地域公民館

後援予定 京丹後市教育委員会・京都新聞社

詳しくは、来年夏ごろにご案内します。

図書館の年末年始の休館日・・・12月28日(日)～1月5日(月)

峰山地域公民館の玄関に「本の返却ポスト」があります。

図書館の閉館・休館時にご利用ください。

来年1月から施設の利用料金が変わります

< 峰山地域公民館 >

(単位：円)

	9時～12時	13時～17時	18時～22時	9時～17時	13時～22時	9時～22時	冷暖房料
大会議室	2,800 2,700	4,000 3,600	4,200 3,600	6,000 6,300	7,400 7,200	10,000 9,900	使用料 の50%
第1会議室	1,000	1,500	1,600	2,300	2,700	3,700	
練習室	900	1,200	1,200	2,100	2,400	3,300	
和室							
第2会議室	700	1,000	1,100	1,500	1,800	2,500	
視聴覚室	400	600	600	1,000	1,200	1,600	
展示室							
料理実習室	1,400 1,200	2,000 1,600	2,100 1,600	3,000 2,800	3,600 3,200	5,000 4,400	

< 紅葉ヶ丘運動場 >

夜間照明施設使用料 250円/1時間

500円/1回 (1コート)

峰山の礎を築いた 峯山藩主 京極氏

【丹波の文化を伝承する会】

☆☆ 峯山藩フォーラム を開催 ☆☆

江戸時代の峯山藩の領主であった京極氏、12代250年の藩政と、藩下の人々の暮らしぶりを、広く市民のみなさんに知っていただくとともに、その歴史を次代に伝承していくことを目的に開催します。

お繰り合わせのうえ、是非お越しください。†

と き 平成21年1月17日(土)午後1時30分から

ところ 峰山地域公民館 大会議室

内 容 基調講演 演題「近世『徳川領国』と峯山藩」

講師 京都府立総合資料館主任 山田洋一氏

パネルディスカッション

『 峯山藩を語る 』

コーディネーター

小山元孝氏(京丹後市教育委員会 文化財保護課主任)

パネラー

山田洋一氏(京都府立総合資料館主任)

脇阪卓爾氏(峰山京極会代表)

系井昭氏(郷土史家)

藤村淳一氏(丹波の文化を伝承する会会長)

主催 丹波の文化を伝承する会

後援 京丹後市教育委員会

協賛 峰山地域公民館・峰山京極会・丹波区・丹波地区公民館

お問い合わせは、「丹波の文化を伝承する会」 藤村淳一(62-1803)まで

「平成21年京丹後市成人式」のご案内

日 時 平成21年3月15日(日)午後2時から(受付 午後1時から)

会 場 京都府丹後文化会館(峰山町杉谷)

対象者 昭和63年4月2日～平成元年4月1日生まれの市内在住者及び市内中学校卒業の方
(該当の方へは個別にご案内します。)

詳細が決まり次第お知らせいたします。お問合せは社会教育課(69-0630)へお願いします。

ジョギングのすすめ



スポーツの試合などで「ゲームをコントロールできた」というコメントを耳にすることがある。この場合のコントロールは相手に対して攻撃を続け試合を優位に進めることができたというような意味で使われる場合が多い。「支配する者」と「される者」の二者の関係、自分と相手である。ところがマラソンとなるとその支配する者とされる者が自分という肉体の中で一致しているから厄介だ。もちろん一流の選手ともなれば自分対相手の戦いとなるが、我々市民ランナーは気持ちと肉体のせめぎあい、しかもその双方が自分の中で呉越同舟、隙あらばケンカすることに問題がある。走り始めは様子を見ながらのペーシングだが、温まってくると身体が遊園地のゲートをくぐった子どものように「ダァ」と走りたがってくる。これを許すと間違いなく後半にバテたり怪我につながる。そこを抑えて徐々にペースを上げていくと何となく分相応のスピードを楽しめるのだが、これがレースや大会となると後半にスパートをかける必要に迫られる。ところが思ったようにスピードが出ない。思いの外余力を使い果たしており気持ちは充分あっても身体が応えてくれない。走りたいのに走らせてもらえない、走りたいのに走れないのである。「今日走ろうかなあ…寒いなあ…風邪をひいたら元も子もないしなあ…でもなあ…ああ」せめぎあいは終わらない。